

平成30年度 姉妹都市ロイテ市・ブライテンヴァング市 青少年交換交流事業報告書



期 間 (受入) 平成30年7月19日 (木) ~25日 (水)
(派遣) 平成30年8月21日 (火) ~29日 (水)



奥州市姉妹都市交流実行委員会

目 次

平成 30 年度 姉妹都市青少年交換交流団員名簿	1
平成 30 年度 姉妹都市青少年交換交流受入日程表	2
平成 30 年度 姉妹都市青少年交換交流派遣日程表	3

《派遣団員感想文》

異文化交流を通して	水沢高等学校	1 年	久保 耀祐	5
交流事業に参加して	水沢高等学校	1 年	加藤 璃珠	7
夢に一步近づくことができた貴重な体験	水沢商業高等学校	1 年	亀井 蘭	9
とても印象に残った交流事業	水沢商業高等学校	1 年	亀井 京華	11
将来につながる交流事業	金ヶ崎高等学校	2 年	小野 綾花	13
派遣事業に参加して	金ヶ崎高等学校	2 年	和賀 七海	15

《受け入れの思い出》

【7月19日～24日】	17
-------------	----

《派遣の思い出》

【8月21日～29日】	23
-------------	----

《引率者報告書》

協働まちづくり部地域づくり推進課 亀井 帝	33
-----------------------	----

《資料》

新聞掲載記事

平成 30 年度姉妹都市青少年交換交流派遣団員名簿（奥州市）

氏 名	性別	年齢	所属	備 考
久保 耀祐 くぼ しょうすけ	男	15	水沢高等学校 1年	①
加藤 璃珠 かとう りず	女	16	水沢高等学校 1年	②
亀井 蘭 かめい らん	女	16	水沢商業高等学校 1年	③
亀井 京華 かめい きょうか	女	15	水沢商業高等学校 1年	④
小野 綾花 おの あやか	女	16	金ヶ崎高等学校 2年	⑤
和賀 七海 わが なつみ	女	16	金ヶ崎高等学校 2年	⑥
亀井 帝 かめい あきら	男	39	協働まちづくり部地域づくり推進課	引率者

平成 30 年度姉妹都市青少年交換交流受入団員名簿（ロイテ市・ブライテンヴァング市）

氏 名	性別	年齢	住所	備 考
Leopold Schweiger レオポルド・シュヴァイガー	男	15	ロイテ市	①
Lea Sophia Eckl リー・ソフィア・エクル	女	17	ロイテ市	②
Sebastian Jäger セバスチャン・イエーガー	男	16	プフラッハ市	③
Reka Pihes レカ・パイヘス	女	16	ブライテンヴァング市	④
Anna Adler アンナ・アドラー	女	20	ブライテンヴァング市	⑤
Martina Adler マルティナ・アドラー	女	18	ブライテンヴァング市	⑥

※備考欄の番号同士がそれぞれホームステイを受け入れ

平成30年度 姉妹都市青少年交換交流事業訪問団受入日程表（7/19～25）

担当 地域づくり推進課

月/日(曜)	姉妹都市青少年スケジュール	宿泊場所	通訳・引率者	集合・解散等
1 7/19(木)	成田空港着(13:00)～成田空港駅発(14:18)京成特急スカイライナー32号～京成上野駅着(15:03)・上野駅発(15:42)～水沢江刺駅着(18:24) 対面式(18:30～18:45)水沢江刺駅交流プラザ	ホームステイ	<空港出迎え> 亀井帝(地域づくり推進課) <駅出迎え> 地域づくり推進課職員	18:20 水沢江刺駅集合 18:45 水沢江刺駅解散
2 7/20(金)	武家住宅資料館にて(着付け体験、茶道体験)、9:00-12:00 昼食～英会話教室受講生との交流会(アスパ)12:00-14:00 書道体験(アスパ)14:00-15:00	ホームステイ		8:45 市役所集合 15:30 市役所解散
3 7/21(土)	ホストファミリーと過ごす 例：えさし藤原の郷、えさし郷土文化館(そば打ち体験ほか)、わんこそば、盛岡イオン、胆沢ダム見学、胆沢川ラフティング体験、百均ショップ、沿岸方面など	ホームステイ		
4 7/22(日)	ホストファミリーと過ごす	ホームステイ		
5 7/23(月)	市長表敬訪問(8:30-9:00)、狛鼻溪にて舟下り(10:00-11:30)、毛越寺見学・昼食(12:30-14:00)、中尊寺見学(14:15-16:00)	ホームステイ	引率	8:20 市役所集合 17:00 市役所解散
6 7/24(火)	プランゼージャパン社訪問(9:00-10:00)、岩谷堂高校(ドイツ語11:00-11:50)、昼食(南 部 家 敷12:15-13:45)、見送り式(14:00-14:15)、水沢江刺駅発(14:38)やまびこ50号～東京駅着(17:24)、都内観光(スカイツリー(まか)) 都内観光	ホテルユニゾン新橋	引率	8:30 市役所集合 15:00 水沢江刺駅解散
7 7/25(水)	京成上野発(14:40)京成特急スカイライナー39号～成田空港着(15:24)～成田空港発(17:55)		引率 見送り	

6	8/26 (日)	ロイテ、ブライテン ヴァング市等				ホストファミリーと過ごす (ホームステイ泊)
7	8/27 (月)	ロイテ 発 インスブルック 発 ウィーン 着	15:10 便 16:15 車	OS906 便 専用車	ホストファミリーが空港まで見送り 空路ウィーンへ 着後 夕食 ホテルへ (ウィーン泊)	
8	8/28 (火)	ウィーン 発	17:45	専用車 OS051 便	ホテルにて朝食後、現地ガイド同行でウィーン市内観光 専用車で空港へ 空路成田空港へ (機内泊)	
9	8/29 (水)	成田空港第1 着 成田空港第1 発 京成上野 着 発 上野 野 発 水沢江刺 着	11:55 13:18 14:03 14:42 17:24	スカイライナー18号 やまびこ55号	着後、入国審査 東京へ 着後、乗換え 水沢江刺へ 着後、解散	

派遣団員感想文

異文化交流を通して

水沢高等学校 1年 久保 耀祐

私がこの研修に参加した理由は二つあります。一つ目は日本とオーストリアでは食生活や生活習慣などの異なる点が多くあると思いますが、その違いがどういう背景から生じるのか知りたかったからです。二つ目は将来英語を使う仕事に就きたいと考えているので、英語でのコミュニケーション能力をさらに磨きたいと思ったからです。オーストリアの学生が日本に来る前に亀井さんからホストフレンドのレオポルドの連絡先を貰い、何度かやり取りをしていましたが、いざ受け入れをすると緊張して初日はあまり話しかけることができませんでした。しかし滞在中の思い出をより良いものにするために、心を入れ替え二日目から積極的に話しかけたおかげでお互い打ち解け、レオポルドが帰国するまで楽しく過ごすことができました。オーストリアの学生が来ている間一番印象深かったのは、中尊寺で昼食を食べたとき、オーストリアの学生全員がうどんを残していたことです。私は団子などの噛みきれないものはガムの食感に似ているため外国人は好まないと聞いていたのでうどん独特の触感がダメだったのだと思います。オーストリアの学生との交流を通して日本の文化について十分に伝えることができたと思いますし、オーストリアの文化も学べたと思います。

今度は私がオーストリアに訪問しました。見るもの聞くものすべてが自分の知らないことばかりでとても新鮮で、有意義な時間を過ごすことができたと思います。レオポルドも私に丁寧にオーストリアの建物や食べ物について教えてくれて、オーストリア、ヨーロッパの文化についてより理解を深めることができました。オーストリアで食べた食べ物の中で一番印象に残っている食べ物は polenta(ポレンタ)という食べ物です。この食べ物はイタリアで広く知られている食べ物で、コーンミールを粥状で食べたり、炒めて食べたりと沢山の食べ方があります。私のホストマザーが作ってくれたのはバターと一緒に炒めたものでしたが、ストロベリージャムをかけて食べているのを見て、トースト以外にストロベリージャムをかけたことがなかったので斬新でした。

また、オーストリアでは英語についても実りが多い研修でした。私はオーストリアの学生が日本にいる間積極的にコミュニケーションは取っていましたが、それでも単語のレポーターが少なく会話を長く続けることができませんでした。そこで夏休み中に自分の課題である単語を覚える事を重点的に勉強したり、ホストファミリーが興味を持ちそうな日本のことについて調べたりしました。おかげでホームステイを受け入れる時よりも自分の伝えたいことを相手に伝えることができました。また話すことだけでなく、

リスニング能力も向上したと思います。家にいる間の会話はすべて英語だったので気が抜けませんでしたし、自分の考えていることを英語に訳すスピードが速くなりました。さらにレオポルドのお母さんが英語の教師ということもあり、英語をもっと話せるようになるためにはどうすれば良いか聞いてみたところ、一番大切なことは間違いを恐れずに英語を話すことだと言っていました。確かに最初から完璧に話せる人はいませんし、失敗がなければ上達も見込めません。また、多少間違っても相手は理解してくれるはずです。私もこれからは失敗を恐れずに英語を話していきたいと思いました。また、レオポルドは英会話を向上させるために日常会話に英語を織り交ぜて会話しているそうです。これは今までにやったことがなかったので私も日常会話の中に英語を交ぜて話していきたいと思います。

私はこの研修を通して日本とオーストリアの違いについてたくさんのことを学ぶことができました。それは姉妹都市を結んでいる奥州市や今回引率をしてくれた亀井さん、私を受け入れてくれたホストファミリー、この事業の参加を許可してくれた家族に感謝をしたいと思います。特にレオポルドの家族は私にとっても親切にしてくれましたし、レオポルドの家族がいてくれたからこそ楽しいオーストリアの生活を送れたといっても過言ではありません。本当に感謝しています。ありがとうございました。また、この研修を通してもっと外国の文化に直に触れてみたいと思いましたし、英語に関してももっと上達したいと思いました。この気持ちを忘れずにこれからも自分の将来に向けて頑張っていきたいです。

交流事業に参加して

水沢高等学校 1年 加藤 璃珠

私は行く前から少し緊張していました。理由は3つあります。1つ目は、初めての海外なので生活に慣れることができるのか。2つ目は自分の英会話の力で話したり、通じたりすることができるのか。3つ目は自分がホストフレンドの家族と仲良くできるのか。の3つです。

はじめは、ホストフレンドが日本に来ました。最初に会った時は、私もホストフレンドも緊張していて会話することができませんでした。日本に来るのは初めてで何も知識がないので何から説明したらいいのか分からなくて家に着いてからも会話が食事の時しかなく自分でもこれではだめだと思い、次の日からは英語が通じなくてもジェスチャーを使って会話をすることができました。茶道や着物は日本の文化であると言ったら「素晴らしい」「お茶はおいしい」と言っていました。着物は暑い、重いなど慣れていないのですごく辛そうでした。水族館に行った時も、「こんなに大きな水槽は見たことがない」オーストリアは海に面していないので「こんなに多くの魚を見たのは初めて」と言ってびっくりしていました。時間が経つのが早く感じ、あっという間に終わってしまいました。最後の夜は、ホストフレンドの家族とビデオ電話をし、「待ってるよ！」と言ってくれたのがとてもうれしく楽しみだなと思いました。でも、少し緊張もあり不安になりました。

とうとう私たちがオーストリアに行く時が来てわくわくしていました。フライトが長く疲れもたまってきましたが、外の景色を10分おきに確認したり、友達とお話したりしていたらあっという間に着きました。時差が7時間もあり日本が朝の時、オーストリアは夜中で時間感覚が分からず大変でした。ホストフレンド達が日本に来た時も思っていたんだなと思いました。ホストフレンドの家に着いて家族と会った時に普通は緊張するのになぜか逆に緊張が解けました。ホストフレンドのお父さんとお母さんがとてもフレンドリーなので話しやすく長い時間お話ししました。お土産を渡した時、弟たちがとても喜んでくれたのでうれしかったです。

次の日からは、みんなでお城を見学したり、アウトドアスポーツを楽しんだり、最後の日にはお菓子作りもしました。お城は西洋なので日本とは造りも形も違って観たことがない感じだったので少し不思議な部分もありましたが色や模様が綺麗でずっと観ていられる気分でした。スポーツはやったことがないスポーツだったけれど、似ている感じのスポーツを知っていたのですぐにできるようになりました。地元のお父さんたちの一人が上手で、真似をしたけれど全然できなくて練習が必要だと感じました。

日曜日はホストフレンドとお母さん、お父さんと教会に行き、帰りにプラン湖に行き

ました。テレビで見るような教会には行ったことがなくてずっと行きたいと思っていたのでよかったです、初めての教会が外国の教会でうれしかったです。プラン湖は日本では観ることのできない水の透明度で、湖に空、雲、山、人全てが写って観えて綺麗でした。お父さんは水切りが得意で見せてもらったら10回くらい続いていたのでびっくりしました。私も負けずに頑張ってみせようと思い、石を投げたらすぐそばに落ちてすぐく笑われました。最後は4回しか続かなかったけれど自分の中でも多い方なので良かったです。

インスブルックに観光に行った時も、みんなで買い物したりアイスクリームを食べたり楽しかったです。別行動になった時も日本の友達1人とオーストリアの友達2人の4人で人ごみの中を抜け、モールに行きました。行く途中での会話がとても面白く、20分くらい歩いたのにあつという間に感じました。めったに見られないものをたくさん見ることができたいい1日でした。

最後の日は帰りたくなくて、1日1日が忘れられなくてホストファミリーのところに戻りたいとずっと思っていました。お別れも悲しく涙が出てきて本当にいいホームステイだったと思います。また会うことは難しいですが、機会があつて会えるのであればまたみんなに会いたいです。ホストファミリーとももっとお話ししたかったです。心残りがあるとすれば、オーストリアの学生が日本に来た時から計画していたバーベキューができなかったことです。夜になると毎日雨が降ってしまいできなく悲しかったです。

受け入れを「いいよ」と言ってくれた家族やホストファミリーに本当に感謝しきれません。この交流事業に参加していい思い出ができてよかったです。次はドイツ語を勉強して覚えて話せるようになったらまた行きたいです。

夢に一歩近づくことができた貴重な体験

水沢商業高等学校 1年 亀井 蘭

私がこの交流事業に参加した理由は、将来の夢があり、それに一歩近づけるかと思ったからです。私は将来、パティシエになりたいと思っているので、この交流で海外のお菓子について学びたいと思い、参加しました。

日本で作られているお菓子と海外のお菓子には大きな違いがあると思いましたし、レシピが似ていたとしても、食材、分量が違うと思いました。日本人に合わせた味になっているので、薄味になっているのではないかと思いました。日本の味だけに慣れるのではなく、海外の味にも慣れておくべきだと思い、日本のテレビ番組で放送されている海外の料理を作ってみたりしていました。その際、そのレシピは日本人の舌に合うように少し手が加えられていると思いました。普段食べているものよりは濃いのですが、そこまで違いはないと思いました。その経験から体験するのが一番いい方策だと思うようになってきました。今回の交流事業は私にとって、願ってもない経験となりました。ホストファミリーが普段行っているケーキ屋で、ザッハトルテ、チーズケーキ、アップルケーキなどを買ってもらいました。私はザッハトルテを食べました。日本のチョコレートケーキとは違い、味が濃く、とても甘かったです。チョコのみでも甘かったです。その間にイチゴのソースが挟まっており、さらに甘さが増していました。日本のケーキとは比べ物にならないくらいの甘さと濃さでした。

ホストファミリーの父親が、私のためにお菓子と料理の作り方を見せてくれました。はじめにお菓子の作り方を見せてもらいました。家で作ったので、簡単にできるレシピを教えてもらいました。作ってもらったのは、アプフェルシュトゥルーデルというオーストリアの有名なお菓子でした。砂糖を小麦粉と同じくらいの量で入れており、驚きました。その後パイ生地で包み、オーブンで焼きました。

焼いている間に料理のほうを見せてもらいました。魚のムニエルのようなものでした。バターを大量に使い、ナッツなどを添えて焼いていました。魚料理を食べた後、アプフェルシュトゥルーデルを完成させました。もともと甘いお菓子に砂糖、カスタードクリームのようなものが添えてありました。オーストリアのお菓子には大概、砂糖、カスタードクリームがかかっていた。そこが日本と違うと五感で実感できました。レシピは似ていて、食材も似ていましたが、違うところは味付けでした。日本は海外に比べ味は薄く、甘さ控えめだとわかりました。実際に体験したため、はっきりと違いがわかりました。

この交流に参加したおかげで、将来の夢に一步近づけたと思ひましたし、これからやるべきことがわかりました。国際交流をしていき、その国のお菓子作りを学んでいきたいと思ひました。交流を増やしていけば、自分の将来の道が開けていくと思ひました。

とても印象に残った交流事業

水沢商業高等学校 1年 亀井 京華

私が今回、この事業に応募した理由は、海外に行ってみたくてという好奇心と、他国と日本の文化の違いを知りたいと思ったからです。

ホストフレンド受入初日、水沢江刺駅で待っている間、すごく緊張しました。オーストリアの学生が乗っている新幹線が到着し、いよいよだ！と期待と緊張感と不安の気持ち、そして、これからの日々が楽しみで仕方ありませんでした。初めは英語がなかなか話せなくてスマートフォンの翻訳アプリに頼りっぱなしでしたが、少しずつアプリがなくても話せるようになりました。

その中で、日本の文化を英語でレカに伝えることが、とても難しかったです。スリッパを履く範囲、折り紙の折り方、布団の敷き方など、どう英語で話せばいいのかわからず、ほとんどジェスチャーを使って相手に伝えました。相手に伝わったのは嬉しいことですが、やはり英語で伝えなかったという後悔もありました。

レカとセバスチャンの2人を受け入れ、1週間近く蘭とともに過ごしました。私と蘭のお互いの家族同士でそば打ち体験とバーベキューをしました。満月の夜の屋根の下でレカが歌を歌い、セバスチャンがギターを弾いてオーストリアの歌を紹介してくれました。とても良い曲で、オーストリアの歌の魅力をその場で感じることができました。ほぼ毎日、蘭の姉を含め5人で夜遅くまで起きてたくさん話をしました。初日のぎこちなさがどこにいったのだろうと思うくらい、楽しい夜を過ごしました。

日本での生活が終わり、別れの日となった時、またすぐ会えるからと寂しさは感じませんでした。しかし、家に帰る途中、やはり寂しさ感じて涙が出てきました。2人は私にとっていつの間にかとても大きな存在になっていたのだと思いました。

1ヶ月後、今度は私たちがオーストリアに訪問しました。日本で作った折り紙や和風のブックカバー、お菓子や漫画などたくさんのお土産を用意し、レカとホストファミリーにプレゼントしました。とても喜んでくれて、さっそくお菓子を食べたり、漫画を読んだりしてくれました。その時の光景は今でも鮮明に覚えています。

オーストリア観光で印象に残っていることは、川がとてもきれいだったことです。日本もきれいですが、オーストリアで流れている全ての川は飲料水として飲めるくらい底まで透き通っていました。その中でも特にプラン湖が印象に残っています。レカとホストファミリーと引率者の帝さんと一緒に行きました。その日は快晴で、水面には夕日と空の景色がはっきりと映っていて、風が気持ちよく、とても心地良い、幸せな時間でし

た。時間が限られていたので長く居ることはできませんでしたが、いつかオーストリアに行くときは必ずプラン湖を観光し、心が満たされるまでずっとプラン湖を堪能したいと思いました。

オーストリアの生活でナイフとフォーク、お金の使い方になかなか慣れず、食事と買い物に苦労しました。でも、レカや周りの人たちが優しく教えてくれて、コツや使い方を覚えることができました。

ついに、みんななどのお別れの時間がやってきました。1人1人に感謝の気持ちを込めてお別れの言葉を言いました。ホストファミリーと別れて、1時間かけてウィーンに移動している途中、ホストファミリーのみんなが居ないことがとても寂しく涙が出てきました。

今回の事業を通して、私の身の回りの人たちにオーストリアの文化を伝えることができました。食事をするときはスープから順に食べ始めることや日本と車道の進行方向が反対なことなどたくさんの違いを伝えました。実際に行って体験してきたことを自分の口から伝えたことでオーストリアに興味を持ってもらえ、とても嬉しかったです。

そして、英語が苦手だったのですが、様々なことを英語で伝えるなかで英語が好きになりました。英語で完璧に伝えることができなかつたことは悔しいですが、伝えようとする気持ちで相手に一生懸命伝えることはとても大切だと改めて感じました。今回の交流事業を通じて学んだことをこれからの生活に活かしていきます。そして、今回の経験を活かし、将来海外に行く際に、たくさんの外国人とコミュニケーションを取れるようになりたいです。長いようで短かった2週間を優しく支えてくれたホストファミリーや家族、参加生徒、引率者の帝さん、そしてなによりオーストリアの学生6人に感謝の気持ちでいっぱいです。

将来につながる交流事業

金ケ崎高等学校 2年 小野 綾花

私がこの事業に応募した理由の1つは英語を学び、将来に生かしたいと思ったからです。また、オーストリアという国だったため、この機会を逃すとそう簡単には行くことが出来ないと思ったからでもあります。日本とは違う文化を学び、新しい発見が出来たらいいなと考えていました。

最初は、留学生の受け入れについて不安なことだらけでした。私のホストフレンドのアンナは20歳で、私と歳が離れていました。しかし、実際にアンナを受け入れてみると不安は一気に無くなりました。はじめは恥ずかしさもありなかなか話しかけることが出来なかったけど、だんだんと自分から話しかけられるようになっていきました。それはアンナが私の拙い英語を最後までしっかりと聞いてくれたからだと思います。言葉が通じ、伝えたいことを伝えられた時は本当に嬉しかったです。年齢や言葉の壁は相手に伝えたいという思いで越えることができるんだと強く感じました。アンナや他の留学生と交流しているうちに、日本とオーストリアの文化や生活様式の違いについて学ぶことができました。オーストリアでは家庭で花火をする習慣が無いということだったので、アンナと花火をした時、アンナは本当に驚き、喜んでくれたのが印象に残っています。そのような日常からも文化の違いが感じられたのはとても新鮮でした。アンナたちがオーストリアへ飛び立つ日は別れたくないという思いの方が強く、オーストリアへ行くのが楽しみで仕方ありませんでした。

オーストリアでは新しい経験が多く、驚いたり喜んだり忙しい日々でした。オーストリアへ行く前からアンナの話聞き、興味が膨らみ、自分で調べたりととても楽しみにしていました。空港に着くと同時に、これからの活動にワクワクしていました。オーストリアのロイテ・ブライテンヴァングは聞いていた以上に自然が多く、そこらじゅうで動物が飼われているのに驚きました。また、街並みも素晴らしく、日本との文化の違いに圧倒されることばかりでした。観光はもちろん楽しかったですが、何よりもアンナや留学生のみんなと沢山交流することが出来たので嬉しかったです。ホストフレンドを受け入れた時以上にフレンドリーに交流することができました。しかしアンナたちと別れる日はすぐにやってきてしまいました。前日まではなかなか実感が湧きませんでした。空港までの車に乗った途端に寂しさが溢れだしてきました。今回の留学で温かく迎え入れてくれた、アンナとホストファミリーに心から感謝したいと思います。

この派遣事業を通じて英語を学べたことはもちろんですが、それ以上に大切な思い出

ができたと思っています。はじめはオーストリアという国について全く知識が無かったのですが、交流しているうちにとても興味が湧いてきました。今後は英語だけでなく、オーストリアの公用語であるドイツ語も学んで、いつかまたアンナたちに会いにオーストリアに戻りたいと思っています。新しい世界を見て、様々な考え方に触れる事が出来るこの事業に参加して本当に良かったと感じています。この経験を自分の将来に生かしていきたいです。

派遣事業に参加して

金ヶ崎高等学校 2年 和賀 七海

私がこの国際交流事業に参加した理由は、外国に興味を持っていたからです。去年、友人が学校で募集している国際交流事業に参加し、アメリカで一週間ほど学んで帰ってきました。その時の話を聞いているうちに、自分の目で見てみたいと思うようになり参加しました。

私はこの国際交流事業に参加し、思っていることを言葉にする難しさを学びました。ホストファミリーと話そうと思って、頭では言葉が浮かんでいても本人を目の前にすると言葉が出てこないことが何度かありました。そのため、伝わった時はとても嬉しく、もっと話したいと思いました。

マルティナと初めて会う時はとても緊張していました。車ではほとんど無言が続き、気まずかったです、でも、だんだんマルティナも慣れてきて、最終日には家の部屋中をビデオで撮っていったので、気に入ってくれたのかなと思いました。二日目の習字の時は、マルティナの漢字を考えるのにとっても苦労しました。普通の「丸」だと可愛くない、短くても三文字になってしまうなど、いろいろ考えて「円帝菜」にしました。マルティナはベジタリアンだったので、「菜」の意味が「野菜」と知ってとても笑っていました。

オーストリアに着いた時、考えていたマルティナに言いたかったことがなかなか出てきませんでした。でも、マルティナが先に話しかけてくれたので、私も言いたかった事を伝えることができました。マルティナはお姉ちゃんのアンナと共に国際交流事業に参加したため、アンナを受け入れた友達の小野綾花と一緒に家で過ごすことができました。二階をすべて貸してもらい、そこにはシャワールームもトイレも、リビングルームもありました。とても広々と過ごすことができました。ですが、その分交流もあまり出来ず、「ご飯は何時だから、その時間になったら下りてきて」などの事務連絡くらいでしか話せませんでした。また、マルティナがいる日はアンナがアルバイト、アンナがいる日はマルティナがアルバイト、というふうに交互にしてくれる感じだったので、なおさらあまりしゃべることができませんでした。でも、美味しい料理や綺麗な建物などをたくさん見せてもらいました。一番思い出に残っているのはノイシュヴァンシュタイン城。お城の中は写真を撮ることはできませんでしたが、外をたくさん撮りました。

今回の国際交流では、英語を聞き取れるようになるなどの英語力の向上ができました。また、異なる文化に触れたことで広い視野を持つことができたと思います。様々な経験ができたのは、市役所の皆さんや引率の亀井さん、担任の先生をはじめとする学校の先

生方、また一番は受け入れを許可してくれた家族のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。また、オーストリアや海外へ行きたいと思っているので、今度行く時は英語力を向上させ、日本について語れるようにしてから行きたいと思いました。

受け入れの思い出

【7月 19日~24日】

7月19日（木）

主な日程：オーストリアの学生との対面

執筆担当：久保 耀祐

7月19日は私たちにとって忘れられない日となった。私たちは改札前でオーストリアの学生たちが来るのを待っていた。私のホストフレンドのレオポルドとは事前にSNSでやり取りはしており、193センチメートルあると聞いていたのでどのくらい身長が高いのか、どんな性格なのか胸を躍らせながら待っていた。すると「来たよ!!」という声と共にオーストリアの学生たちが姿を現した。

レオポルドとは車の中や家に到着してからレオの家族やオーストリアのこと、日本のことについてたくさん話した。しかし知らない単語が多くあり、翻訳アプリを使いながらの会話だった。期待と不安が入り混じりながら特別な日々が始まった。



7月20日（金）

主な日程：浴衣着付け体験、茶道・書道体験など

執筆担当：加藤 璃珠

今日は最初に着付け体験をした。みんな一人ひとり自分に合うのを見つけて着付けをしてもらった。飾り帯などをつけてもらおうと「なんで、私だけ？」と不思議に思っていたけど、気に入ったみたいで良かった。でも、暑くて苦しかったと言っていたので、最初は大変なんだなと思った。次に茶道体験をした。お茶をたてたり、お菓子に挑戦する前に正座がきつくてみんな立ったり座ったりの繰り返しだった。オーストリアの人達は抹茶を飲んだことがないので、最初は臭いを嗅んだり色を見たりと不思議そうだった。しかし、飲んでみると、美味しいと言いながら飲んでいた。

お昼ご飯はアスピーア英会話教室に通っている方々と一緒に食べた。オーストリアの話や日本でしたいことなどたくさん話した。楽しかった。そのあと、みんなで買い物へ。100円ショップがとっても楽しかったようだった。プリクラをみんなで撮った時は、何の機械なのかわからなくて最初はとても緊張していた。とても楽しい一日を過ごすことができた。



7月21日（土）

主な日程：ホストファミリーと過ごす日

執筆担当：亀井 蘭

今日は、京華さん家族と合流し、レカとセバスチャンとみんなでそば打ち、食材の買い出し、バーベキューをしました。初体験のそば打ちを楽しみながら作っていました。二人とも上手に作っており、自分で作ったそばを食べ、おいしいと喜んでいました。バーベキューの買い出しに合わせて、前沢イオンで手持ち花火を買いました。初めて花火体験ということなので、楽しめる花火を子ども達で選びました。ほかにも前沢イオンのゲームコーナーで **UFO** キャッチャーを楽しみました。

バーベキューをしながら手持ち花火を楽しんでおり、たまに振り回したりしていました。花火の後にはセバスチャンにギターを弾いてもらいました。夜にはマリオカートで対戦し、みんなで遅くまで何度も対戦して楽しみました。



7月22日（日）

主な日程：ホストファミリーと過ごす日

執筆担当：小野 綾花

4日目の今日は、ホストファミリーと過ごす日だった。私の家にホームステイしたアンナと、妹のマルティナ、その友人のリアと合計6人で「えさし藤原の郷」へ行く予定だった…。しかし、出発しようとしたその時、セバスチャンからの「みんなで行きたい」という要望で8人で行くことになった。「えさし藤原の郷」ではまず伝統芸能の鹿踊りを見た。炎天下のなか約15kgもの衣装を被って踊っているというのを知ったアンナたちがとても驚いていたのが印象的だった。その後、私たちはトリックアートを見に行った。みんな積極的に写真を撮り楽しんでた。その次にセバスチャンが貴族の着物を着てみんなに写真を撮られていたのがおもしろかった。また私たちは「砂金採り」もした。砂金を採るのはなかなか難しかったが、アンナは一発で砂金を見つけていて才能があると思った（笑）。その日の夜はアンナと私の妹と3人で折り紙をして遊んだ。鶴の折り方を教えるとアンナは喜び、自分で作ってみたいと言ってくれた。自分にとっても初めての経験ができて、アンナやみんなとも交流を深めることができ、良い一日となった。



7月23日（月）

主な日程：市長表敬、猯鼻溪、中尊寺・毛越寺観光

執筆担当：亀井 京華

ホームステイ5日目。徐々に慣れてきた。猯鼻溪では、魚や鴨に餌を与えたり、景色を楽しみながら写真を撮ったりしました。帰りの舟ではセバスチャンとレオが舟を漕ぐ体験をしました。岩にぶつかりそうでしたが、力強く漕ぐ姿は男らしく見えました。

猯鼻溪のあとは毛越寺で昼食をとりました。昼食は麺類とデザートを食べ、話に盛り上がりお笑いしながら楽しく食事をしました。毛越寺では、さまざまなお寺や堂の跡がありました。でもあまり長くいる時間がなかったので、また今度家族と一緒にいきたいと思いました。

次に中尊寺・金色堂に行きました。行く途中の上り坂はとても辛かったです。それに比べて、オーストリアの学生は軽々と登っていてビックリしました。中尊寺ではオーストリアの学生がガイドさんのお話をしっかりと聞いていました。帰りの下り坂では傾斜が急すぎて、つま先を痛めました。これもまた、オーストリアの学生は余裕で歩きました。その後、近くのお店に寄ってアイスを美味しくいただきました。この日もまた楽しい思い出となった1日でした。



7月24日（火）

主な日程：プランゼージャパン社訪問、岩谷堂高校ドイツ語授業参加、お見送り

執筆担当：和賀 七海

今日はオーストリアの学生と奥州市で過ごす最後の日でした。プランゼージャパン株式会社では、皆、おやつをいただきながら話を聞き、これは何をする機械なのかなど積極的に質問していました。帰りには手作りの小さい着物をいただき写真撮影をしました。小さい着物をペットボトルの上にかぶせている人もいました。

岩谷堂高校では、一人一人が岩高生の質問に答えていました。例えば、私は〇〇（動物）が好きですが、あなたはなんの動物が好きですか？などという質問をされて、自分の好きな動物を答えていました。ドイツ語で話す時のオーストリアの学生はとてもイキイキしていました。

南部屋敷の前に寄ったサンエーでは、お菓子など好きなものを買っていました。奥州市での最後の食事となる南部屋敷では、蕎麦や天ぷらなど日本らしいものを最後まで食べていました。最後ということで、ホストフレンドの隣に座ったのですが、いざとなると全然言葉が出てこず、一言喋って終わってしまいました。

最後のお別れ。時間が沢山あったので、写真を撮りました。親は、泣きそうになっていましたが、次は私がオーストリアに行く番だと思っていたので、案外泣きもせず明るく笑顔でお別れしていました。約4週間の間に今回よりももっと勉強をして、もっとコミュニケーションをとりたいと思いました。



派遣の思い出

【8月21日～29日】

8月21日（土）

主な日程：オーストリアに向けて出発

執筆担当：和賀 七海

朝7時30分。水沢江刺駅に集合し、私達の日目は始まりました。初めてのスカイライナー、初めての出国審査、初めての入国審査。初めての事だらけでしたが、不安はあまりなくとても楽しめました。しかし、私は日本を出る前の手荷物検査の時、金属探知機に引っかかってしまいました。ゲートを通った時、音が鳴ったのです。思わずポケットの中を見ましたが、何も入ってはいませんでした。何か問題になりそうな物を探したところ私はベルトをつけていました。係員に「ベルトですかね…。」と聞いたところ、「ベルトは金属がたくさんついているからね。」と言われました。その後、女性の方からボディチェックを受け、靴を荷物と一緒に流し、他にないか念入りにチェックを受けたあと大丈夫だと判断されました。その後の出国審査では、パスポートに判子を押してもらい出国しました。

飛行機が飛んだのは13時50分。そこからは12時間のフライトでウィーンに着いたのは19時でした。時差が7時間ありましたが、時差ボケなどはなく、次の飛行機に乗るためにすぐに移動しました。そこから飛行機でインスブルックまで行き、迎えに来てくれていたセバスチャンとお父さんの車に乗って、ロイテ、ブライテンヴァングに行きました。車の中では寝ていましたが、2時間半位のドライブだったと思います。着いたときには夜中の12時になっていましたが、待っていてくれたホストファミリーと少し挨拶をしたあと、お家に向かいました。帰ってすぐにお部屋を紹介してもらい、その後にリビングでスープを飲みました。その後は、シャワーを浴びてすぐに寝ました。とても疲れていたの寝付きは良かったと思います。



8月22日(水)

主な日程：市長表敬、エーレンベルグ城址、博物館など

執筆担当：小野 綾花

滞在2日目は両市長への表敬訪問から一日が始まった。この日は朝から快晴で、とても暑かった。オーストリアでの活動初日ということもあり緊張していたが、ホストファミリーや両市長に温かく迎え入れてもらいとても嬉しかった。

表敬訪問が終わるとエーレンベルグ城址・博物館の見学に向かった。向かっている道中でも見たことのないような建物や大自然の美しさに圧倒されて休む暇もなかった。エーレンベルグ城址は、山の高いところにあり、ロイテ市・ブライテンヴァング市の街並みを一望することが出来た。その後ハイラインという橋を渡った。その橋は本当に高くとても怖かった。

昼食はお店でシュニツェルというオーストリアの伝統料理を食べた。とても美味しかったが相当な量だったため食べ切ることが出来なかったのが残念だった。博物館の見学では、その土地の様々な歴史を学ぶことが出来た。また、甲冑を着ることが出来たのは良い経験となった。最後は騎士になる儀式を受け、全員が騎士の認定書を貰えたのが印象に残った。

帰宅後、私はホストファミリーのアンナたちとアイスを食べに行った。アイスは美味しかったが、日本のものよりかなり大きく感じた。その後、美しい夜景と街並みに感動しつつ、ホストファミリーの家に帰った。最初は不安もあったが、充実した一日になり本当に良かったと思う。



8月23日（木）

主な日程：プランゼー社訪問、ハーネンカムの登頂、歓迎夕食会

執筆担当：亀井 京華

オーストリア滞在3日目。プランゼー社を訪問し、工場の中を見学させてもらった。鉄のパウダー製造から最終製品の機械加工について全て説明してもらった。会社の社員食堂で昼食をとった。食事はスープを先に食べるということをそこで初めて知った。オーストリアの食文化について新たに1つ学んだ。

次は山に行った。ケーブルカーに乗って景色を眺めた。この日は天候が悪く滑りやすく危なかったけど、誰一人怪我しなかったのが良かった。カフェで一休みした。新しい食べ物や飲み物に挑戦した。口に合うものもいれば、そうでない人もいた。

夕食会で最高の夜を過ごした。ドイツ語で自己紹介をしたり、オーストリアの学生達を作成したビデオを見たり、市長さんからプレゼントをもらったりした。

夕食後にみんなでパブに行った。日本の学生達は疲れていたし、制服にタバコの臭いが付いてしまってちょっと嫌だったけれど、夜にみんなで出歩いたことが楽しかった。最高に楽しい夜の思い出となった。



8月24日（金）

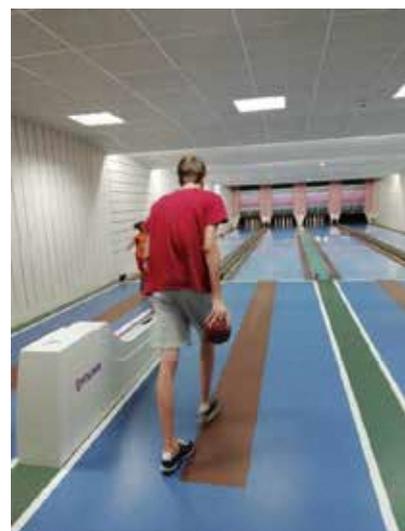
主な日程：ノイシュヴァンシュタイン城見学、フュッセン市観光

執筆担当：亀井 蘭

シンデレラ城のモデルになった、ノイシュヴァンシュタイン城へ行きました。そこへ行くまでは山道を登っていきました。到着すると、景色が綺麗で、記念撮影をしました。城はいつも工事をしていることがわかりました。昔の人が考えた知恵が作られた城は色々な工夫が施されていました。観光客が多くてなかなか進めず、写真を撮るのも大変でした。

お昼にはオーストリアの伝統的な食べ物を食べました。夜にはみんなでボーリングをしました。日本とはルールが違って、1～9本のピンの倒す本数を決め、その決めた数を全て倒さないと終わることができないというルールでした。

夕飯は、私のホストファミリーの父親が作るコース料理を食べました。料理を作る工程も見せてもらい、材料も教えてもらいました。料理はとても美味しく、特に私が食べたかったアップフェルシュトゥルーデルを食べることができ嬉しかったです。



8月25日(土)

主な日程：インスブルック市観光

執筆担当：加藤 璃珠

朝早くから電車に乗って、インスブルックに行きました。電車の中で疲れてみんな寝ていました。着くまでの時間が長くて正直テンションが下がり気味だったけど、着いたら見たことのない景色や風景にみんな興奮していましたが、少し緊張している様子も見えました。買い物をしたり、観光をしたりととても楽しみました。日本とは全く違う建物や街並みに驚きました。買い物では、色んなお店を周りましたが、何を買ったらいいのか、どこへ行ったらいいのか分からなくてあまり買えなかったのもう少し考えて行けば良かったと少し後悔しています。それでもお土産を買うことができたので良かったです。

お昼はピザとラザニアを食べました。サイズも量も日本とは全く違ってました。味もとても美味しかったのですが、食べ切ることができませんでした。滞在時間が短く感じて、もっとインスブルックにいたかったです。一日が早く感じました。とても楽しい一日でした。



8月26日(日)

主な日程：ホストファミリーと過ごす

執筆担当：久保 耀祐

今日はホストファミリーと一緒に過ごした。2日前にレオのお父さんにダーツを勧められ、やってみると案外楽しく、それから毎日レオのお父さんとダーツをするのが日課になっていた。この日は初めてレオのお父さんに勝てた。また、今日はホストファミリーと過ごす最後の日だったので、普段はダーツをしないレオも参戦してくれた。ダーツを終え、レオのお母さんがオーストリアのお菓子、Apfel strudel(アップフェルシュトゥルーデル)を作ってくれた。本来ならりんごが甘いはずなのだが家で育てたりんごを使っていたのでとても酸っぱかった。その後レオと二人でプールに行った。天気良ければ湖で泳ぐ予定だったが気温が低かったので泳げず残念だった。そこではレオと競争をしたりウォータースライダーを滑ったりして遊んだ。私が行ったプールにはプールサイドにビーチチェアが置いてあった。私が泳ぐときに行くプール施設は、ビーチチェアのようにくつろぐものはなく、少し休憩するためのベンチしかないのが新鮮で貴重な体験だった。

夜はアンナ、マルティナの家に全員集まりクッキーを作ったり、ボードゲームをしたりしてホストファミリーとの最後の夜を過ごした。



8月27日（月）

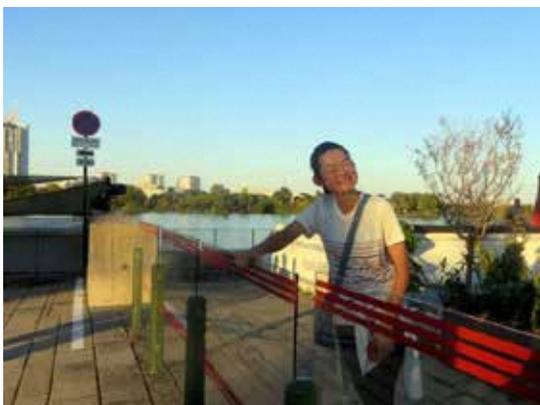
主な日程：ホストファミリーとお別れ、ウィーン観光

執筆担当：和賀 七海

今日はホストファミリーと過ごせる最後の日でした。朝は晴れていて景色が綺麗だったので、寂しさが増してしまいました。スーパーで買いたいものがあったので、スーパーに行きました。「ドンキ見る？」と聞かれたので、「見たい！」と言ったらロバを見せてもらいました。ロバを見て家族と過ごしたあとはお別れの時がきました。

テレビ局の人がきて、英語で質問に答えたあとは、まともにお別れの言葉も言えずに空港へ向かいました。迎えのときはセバスチャンでしたが、今回はレオポルドとパパが送ってくれました。空港に着き、預け入れ荷物が2個預けられると知ったので、一個プラスチックのバックを預けようと思ったらプラスチックは駄目だと言われ、急いでリュックを預けました。そして、レオポルドとパパと別れ、ウィーンに向かいました。

ウィーンではガイドさんと合流し、ディナーへ向かいました。ディナーではシュニツェルやコンソメスープ、アップルパイを食べました。ホテルに行き、その後はウィーンの街を歩きました。途中で寿司屋を見つけ、「海外と日本の寿司の違いを知るのも良い経験」と言う帝さんの提案でお寿司を買って食べました。お寿司のご飯はベチャベチャでしたが、サーモンは美味しかったです。ですが、お米が美味しくなかったです。お米の大切さを知りました。美味しいお米を食べられる幸せが分かり少し成長できたと思います。



8月28日(火)

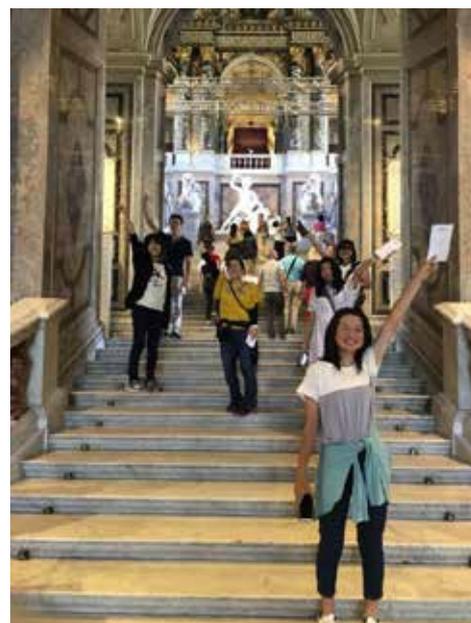
主な日程：ウィーン観光、日本へ向けて出発

執筆担当：小野 綾花

今日はオーストリア滞在最終日で、ウィーンの観光をした。前日はホストファミリーと別れたばかりで少し寂しかった。ホストファミリーや他の留学生との思い出は一生のものになると思った。

ウィーンには歴史的な建物が多く建てられており、どこを見ても興味をそそられるものばかりだった。特に印象に残ったのはシェーンブルン宮殿だ。その広さもさることながら、内装や庭園も豪華でとても驚いた。その後私達は美術史美術館へ向かった。私はその美術館に行くのを本当に楽しみにしていた。そこは外装も豪華で美術館らしい造りだった。美術が好きな私にとって、たくさんの絵画を見ることができたのはとても良い経験になった。絵画は迫力があり、作品の一つ一つに様々な思いが込められているような気がした。昼食はウィーンの歴史的なレストランで食べることができた。そこで食べたザッハトルテは本当に美味しかったので、また機会があったら食べたいと思う。

私たちは最後にウィーン市中心部を歩いて観光した。そこは歴史的な建物と現代のお店が融合した美しい都市だった。感動してばかりの観光だったが、楽しみだけでなく、日本との文化の違いについても学び、有意義に過ごすことができた。いつかまた来たいと思った。



8月29日（水）

主な日程：日本到着

執筆担当：亀井 京華

飛行機の中で最後の夜を過ごした。日本に到着した時、「帰ってきちゃった」と思った。時間が戻ってほしいと思ったけれど、現実は進んでいくばかりだった。電車と新幹線に乗り遅れないように、みんな疲れている中頑張って移動した。新幹線に乗る前に皆でおにぎりやお菓子、飲み物を買った。新幹線の中でおにぎりを食べた。日本の米はやっぱり美味しいと涙が出るほど感動した。食べ終わったあと、水沢江刺駅に着くまでみんなで寝た。

水沢江刺駅に到着して家族と9日ぶりに再会した。無事に家族のもとに帰ってきたんだなと安心した。それと同時に、ここにはもうオーストリアの学生達はいないんだなと寂しさがあった。

家に帰って、お土産や写真を渡した。夕食は私の希望で回転寿司屋に行った。疲れはいたけども、日本の伝統食を食べたい一心でいた。たくさん思い出話をした。半日では収まりきれないほどだった。夜寝る時、オーストリアでの出来事を思い返していたら涙が出てきた。本当に楽しかった。みんなにありがとうの気持ちで胸がいっぱいだった！



引率者報告書

姉妹都市ロイテ市・ブライテンヴァング市青少年交換交流事業引率者報告

協働まちづくり部地域づくり推進課 亀井 帝

7月19日（木）

- 13:00 成田空港に一行の飛行機到着
- 14:00 空港到着ゲートにて一行と対面
- 14:40 成田空港発
- 15:42 上野駅発
- 18:24 水沢江刺駅着
- 18:30 水沢江刺駅構内にて対面式

フライト状況を随時確認できるスマートフォン用アプリにて、ロ・ブ市学生一行を乗せた飛行機情報を随時確認しつつ、早めに成田空港入り。定刻通りの到着であった。平成28年度と同様に、学生達とは無料通信アプリ（WhatsApp）を活用して連絡を取り合える状況であったため、入国審査手続き等の進捗状況を随時把握することができ、今回もスムーズな出迎えとなった。ところがリアが飛行機の座席にメガネを置き忘れるというハプニングが発生。関係者に問い合わせをし、無事にメガネが届けられたが、思った以上に時間を要したため（約30分）、予定していた京成スカイライナーには乗ることができなくなった。幸いにも次発便への振り替えが可能であり、且つ予定している新幹線にも間に合うことが判明したため、事なきを得た。

疲労の様子はあまり見受けられなかったが、高温、高湿度に驚いている様子。特に日本独特の湿度に全員「信じられない」という雰囲気。初の日本ということで新幹線内でも元気な姿を見せていたが、新幹線移動の後半は疲れのため皆眠っていた。

定刻通り水沢江刺駅に到着。奥州市側の学生達が家族と共にお出迎え。駅構内にて簡単な対面式を行い、その日は解散。ロ・ブ側の学生たちは受け入れ家庭と共に駅を後にした。



水沢江刺駅前にて全員で記念撮影

7月20日（金）

- 08:45 本庁集合
- 09:00 アスパアにて浴衣着付け
- 10:00 武家住宅資料館にて茶道体験
- 12:00 市民交流会（アスパア英会話教室の方々）
- 14:00 書道体験
- 15:30 メイプル散策
- 17:00 解散

全員予定通り集合。本庁からアスパアへ徒歩移動。茶道体験に備えて全員が浴衣着付け体験。なお、本日の浴衣着付け、茶道体験、市民交流会については市国際交流協会の協力により手配していただいたもの。

茶道体験では日本の伝統文化を学ぶという点では有意義であったが、作法や所作の理解は今ひとつ難しい様子。抹茶や和菓子の味については概ね好評。



所作もなかなか様になっています



見よう見まねで茶道にチャレンジ

ランチを兼ねての市民交流会は、多くの参加者で賑わい大いに盛り上がった。老若男女が一同に介し、英語にて異文化交流を楽しんでいる様子。お互いの自己紹介から始まり、まちの様子やそれぞれの趣味など多岐にわたる話題で盛り上がっていた。日本の生徒達にとってもこのような初対面の人たちと交流する社交の場への参加は良い経験となった。



多くの参加者と積極的な交流が行われました

交流会終了後、同じくアスピアのサロン室にて書道体験。講師に小野寺満氏（元市職員）をお迎えし、「ロ・ブ市の生徒達の名前に漢字を当てはめてそれを書く」ことに挑戦した。日本側の生徒には事前に漢字を考えておくように指示しており、書きやすさなども考えた結果、最終的に、レオポルド（獅）、リア（理愛）、セバスチャン（瀬美）、レカ（玲華）、アンナ（杏菜）、マルティナ（円帝菜）という漢字が当てられた。アンナ、マルティナ姉妹はベジタリアンなので「菜」を用いたこと、レオポルドは普段からレオと呼ばれており、レオ＝獅子という発想から「獅」を用いたことなど、漢字の意味について説明を興味深く聞き入る生徒たちであった。



漢字を書くのに悪戦苦闘



初めての書道とは思えない素晴らしい出来栄

予定していたプログラムは書道で終わりであったが、まだ帰宅するには早いということで、メイプルへ行き、100円ショップや4階のゲームコーナーでプリクラをみんなで撮るなどして楽しい一時を過ごしていた。12人が本日共に活動したことにより仲がかなり深まっている様子が見て取れた。

7月21日（土）、7月22日（日）

ホストファミリーとそれぞれの週末を過ごしたとのこと。

7月23日（月）

- 08:20 本庁集合
- 08:30 市長表敬訪問
- 10:00 狛鼻溪にて舟下り
- 12:30 昼食・毛越寺見学・中尊寺見学
- 17:00 帰庁・解散

市長表敬のため、本庁舎4階へ向かったところ、総務企画部の職員が総出で拍手の歓迎。予想外の出来事に驚きながらも笑顔で市長応接室へ進む一行であった。市長表敬訪問では、ロイテ・ブライテンヴァング市から預かった書簡とお土産（シュナップス）を生徒から小沢市長へと手渡された。また、小沢市長からオーストリア側の学生一人一人に市のお土産が手渡された。

市長表敬を終え、バスにて狛鼻溪へ向かう。滞在5日目ともなると時差ボケもすっかりと解消されている様子。英語でのコミュニケーションには苦勞しているようではあるが、全体の雰囲気は非常に良い。2年前の学生達に大好評だった狛鼻溪での舟下りは今回も好評。綺麗な川の流れ

を楽しむ中、「川に入って泳いでも良いか？」とリアに質問される。てっきり冗談で言っているのかと思いきや、本人は至って真面目。泳げないことを伝えたところ、「なぜ泳いではいけないのか。オーストリアでは川や湖で泳ぐのは普通のことなのに」と不思議そうな表情を浮かべていた。



船上で素敵な笑顔浮かべる4人



レオポルドが船頭に挑戦

舟下りを終え、場所を毛越寺へ。敷地内の食堂「松風庵」にてうどん・そばセットの昼食。なお、ベジタリアンのアンナ、マルティナの二人へのめんつゆは鰹ダシではなく、椎茸ダシの物を準備していただいた。オーストリアの生徒達にはうどんのもっちりとした食感があまり好みではないらしく、箸が進まず、大半を残していたが、そばについては問題なさそうであった。

昼食後は毛越寺庭園及び中尊寺を見学。国際交流協会佐藤剛会長が駆け付けてくださり、生徒達に建造物や歴史事項などについてご案内いただいた。興味深く聞き入る生徒達であった。



皆さん、うどんよりそばが好みの様子



金色堂をバックに記念撮影は定番中の定番

7月24日(火)

- 08:30 本庁集合
- 09:00 プランゼージャパン社訪問
- 11:00 岩谷堂高校ドイツ語授業参加
- 12:00 昼食
- 14:00 水沢江刺駅にて見送り
- 17:24 東京駅着
- 18:00 東京都内観光

早いもので奥州市滞在も本日が最終日。姉妹都市締結の契機となったプランゼージャパン社を訪問し、会社概要について説明を受けた。工場内の各設備を見ながら金属精製過程についても説明していただいたことで、日本側の生徒たちは全体像を掴んでいる様子であった。

その後岩谷堂高校へ移動し、ドイツ語の授業へ参加。オーストリア側の生徒たちは教壇付近の座席へ。日本側の生徒たちは教室の後ろで授業の様子を見学。岩谷堂高校では3年生になるとドイツ語を含む複数教科から希望によって科目を選択するというシステムとのこと。ドイツ語を学び始めてまだ3カ月少々とのことで、自己紹介や簡単な質問を中心とした授業であった。ドイツ語の内容については全く理解できなかったが、岩谷堂高校の生徒たちはドイツ語会話を実践するまたとない機会ということもあり、多少の照れは見せつつも大いに盛り上がった。



岩谷堂高校のドイツ語授業に参加



ドイツ語クラスのみみんなと記念撮影

昼食後は水沢江刺駅にて日本側の生徒家族とのお別れ。また1カ月後には再会できると分かっているものの、やはり別れは寂しいものであり、新幹線出発ギリギリまで言葉を交わしていた。新幹線車内ではアンナ、レカが泣いており、特にレカはしばらくの間泣き続けていた。他の生徒達も寂しさを噛み締めている様子であり、車内はしばらくしんみりとした雰囲気が漂っていた。



新幹線ホームにてお別れの時



翌月の再会までしばしのお別れ

1時間もすると気持ちは東京観光に向きはじめ、車内ではかなり大はしゃぎの一同。あまりにも会話の声が大きすぎるので少し声量を抑えるように伝えたところ、「なぜ日本人たちは車内でこんなに静かなのか？」と理解に苦しむ様子。それぞれの考える「普通」というものは異なるもので「日本人からすれば、なぜあなた達はそんなにも騒がしいのか」と思われているはずだと伝えたところ、「なるほど、確かに自分達の考える普通は他からすれば普通ではないのか」と改めて

文化の違いを受け入れた様子であった。

東京に到着し、ホテルにチェックイン後はいよいよ観光ということで生徒達は興奮気味。夕食については、そろそろハンバーガーなどの欧米料理を食べたいという者と日本滞在中は日本的な料理を食べたいという者で意見が割れていたが、話し合いにより日本的な料理を食べることでまとまっていた。夕食後は東京スカイツリー、都内散策、ファミリーレストランという行程で午前1時過ぎまで東京の夜を存分に楽しむ生徒たち。奥州市滞在中はまとまりのある6人であったが、東京ではそれぞれが見たい物、食べたい物、行きたい所に強い希望があり、意見が割れる場面が多々見受けられた。気づくとどこかへふらっといなくなっている者もいたので、連絡手段も無い状況なので、勝手な行動は控えるように伝えた。



東京スカイツリー展望デッキにて



深夜でも彼らの元気は衰えません

7月25日（水）

- 08:30 ホテルチェックアウト
- 09:00 都内観光（浅草寺～原宿～渋谷）
- 15:30 成田空港着
- 17:55 成田空港発～帰国

日本滞在中も本日が最終日。ホテルチェックアウト後、上野駅のロッカーにスーツケースを預け、浅草寺へ向かう。仲見世通りを見た瞬間に興奮する生徒たち。集合時間を決めて自由行動とした。お線香を買う者、お菓子を買う者、お土産を選ぶ者など、それぞれが思い思いの時間を過ごしていた。浅草寺の次は全員の強い要望の場所、原宿へ。竹下通りが見えた瞬間、生徒たちの興奮度合いは最高潮に達し、「これこそが自分の思い描く日本！」と声を弾ませている。当初はみんなでどこかのレストランに入って昼食を考えていたが、昼食は抜きにしても自由に散策したいという声が全員から挙がったため、ここでも自由行動に切り替え。集合時間に集まった生徒たちからは、「ここは本当に素晴らしい場所。東京はすごい。今まで想像していた日本が一気に目に飛び込んできて、興奮を通り越して頭がパンクしてしまいそう。でもすごく楽しい」と抑えきれない思いを語る一同であった。原宿の次は渋谷のアニメショップへ行くことへ。どこのエリアに行っても往来する人の多さに信じられないという様子。原宿もすごい渋谷もすごいとはしゃぎっぱなしの学生たちだが、昨晚の注意が効いたのか、勝手にどこかへ行ってしまってもなく、集合時間も守るので引率としてはありがたかった。

都内観光を心置きなく楽しんだ一同は、予定通りの電車で空港へ。成田空港にて航空会社のチェックインを見届け、お別れの挨拶をし、出国ゲートにて見送り完了。

本事業の引率は前回に引き続き2回目であるが、前回同様に実に礼儀正しい6人で、担当として苦労や大変という思いをすることなく受け入れを終えることができた。



雷門にて



この旅一番の興奮を見せた竹下通りにて



日本のアニメは海外でも相当人気が高いそう



日本滞在を満喫しました！

8月21日（火）

- 07:59 水沢江刺駅発
- 10:40 京成上野発
- 13:35 成田空港発
- 18:35 ウィーン空港着（乗り継ぎ）
- 21:30 インズブルック空港着
- 23:30 ブライテンヴァング市役所（ホストファミリーと対面）

予定通り全員が水沢江刺駅に集合。パスポートをはじめ、各荷物の準備に問題ないことを確認し、出発の準備が整っていることを確認した。亀井蘭さん（水沢商業高校1年）が前日の体育の授業中に転倒し、右膝裂傷及び左足首捻挫との診断を受けたとのこと。平地を歩くのは問題なさそうであるが、訪問先では主に傾斜地のハイキングを中心としたメニューとなっており、グループでの行動が難しい場合も想定される。ブライテンヴァング市の担当者、ダニエラさん及び蘭さんのホストファミリーにメールで状況を報告した。

保護者や地域づくり推進課職員に見送られ奥州市を出発。現地でホストファミリーへ対面するのはおおよそ24時間後を予定しており、長旅がいよいよはじまった。生徒全員が初の海外旅行ということもあり、気持ちの高揚が伝わってくる。上野駅での乗り換えもスムーズに進み、予定通り成田空港へ到着。荷物預け入れや外貨両替などを終える頃には搭乗時刻のおおよそ1時間前となっており、レストランなどで昼食休憩を取るのにはあまり余裕がないため、昼食は機内食で対応することとした。



地域づくり推進課長の激励とともに旅の始まり



日本出国直前に記念撮影

ほぼ予定通りにウィーン空港に到着し、インズブルック行きの便へ乗り継ぎ。インズブルック空港へはセバスチャン親子が迎えに来てくれることになっているため、状況をセバスチャンへ報告した。

インズブルック空港にてセバスチャンと約1ヶ月ぶりに再会し、全員が喜びの表情を浮かべていた。生徒たちは長旅の疲れはあるものの、体調は問題無い様子。ブライテンヴァング市の公用車（ワゴン）に乗り、途中休憩をはさみながら約2時間のドライブでようやく姉妹都市へ到着となった。ホストファミリー全員との再会に改めて喜びを見せていたが、さすがに疲労の色も強く、時刻も夜中であるため、それぞれ簡単に挨拶を交わし解散となった。引率者（亀井）は、姉妹都市滞在中はモザーホフホテルへ宿泊となる。セバスチャン親子にホテルまで送ってもらい、明日

朝にはブライテンヴァング市の姉妹都市担当者のダニエラが迎えに来てくれるとの伝言を預かった。



約1カ月ぶりの再会。夜中のため少々肌寒い

8月22日（水）

- 09:30 ロイテ市長、ブライテンヴァング市長への表敬訪問
- 11:00 エーレンベルク城跡～ハイライン 179～昼食～歴史博物館
- 17:00 帰宅

ロイテ市役所に到着。生徒たちも全員集まっており、庁舎2階の部屋に案内された。市関係者が多数集まっており、その中には2011年以降、本交流事業の通訳を担ってくれているロワウド氏の姿が。日本への留学経験もあるロワウド氏が今回も通訳及び随行をしてくれるとのこと。ロイテ市長から歓迎の言葉をいただき、ブライテンヴァング市長は本交流事業の意義についてのお話をいただいた。

奥州市からの書簡と土産もそれぞれ生徒たちから手渡し、無事に任務完了。

その後は全員での記念撮影や軽食などを参加者一同で楽しみ、姉妹都市での活動の始まりをいよいよ実感する生徒たちであった。



小沢市長からの書簡を両市長へ手渡しました



お土産の切り絵を大変喜んでいただきました

エーレンベルク城跡、ハイライン 179（吊橋）、歴史博物館と近隣の名所を半日かけて巡った。トータルで数時間は起伏のある形状を歩くことになったが、幸いにも蘭さんの足の状態は悪化しておらず、無事に全行程を共に過ごすことができた。名所巡りを終え本日のプログラムは終了。天気も良好なので、生徒たち全員が湖に集まってバーベキューをすることで話をまとめていたが突如雷を伴う雨模様になってしまい、バーベキューはできなかった模様。



ハイライン179



歴史博物館

引率者は前回（2016年）参加生徒達と再会する約束をしており、ロイテのレストランにてデイヴィッド、ニーナ、アントニア、フィリップ、リア、ベンジャミンの6人全員と2年振りの再会を果たすことができた。皆それぞれ高校を卒業し、次の道に進んでいた。2年前の日本訪問は今でも良い思い出として残っているとのもので、当時の思い出話で大いに盛り非常に素晴らしい一日の締めくくりとなった。



全員かなり大人っぽく成長していました

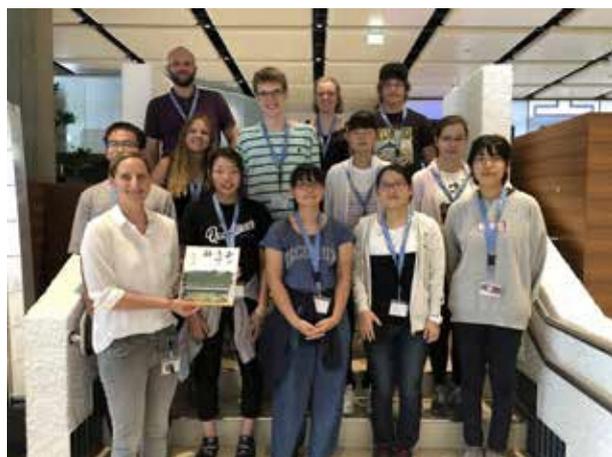
8月23日（木）

- 10:00 プランゼー社訪問、昼食
- 13:00 ハーネンカム登頂（ケーブルカーにて）
- 15:30 ユニカール体験（陸上カーリング）
- 19:00 ロ・ブ市主催歓迎夕食会

姉妹都市交流のきっかけとなったプランゼー社を見学。広大な敷地に巨大な施設が建設されており、奥州市で言えばZアリーナのあるふれあいの丘公園全てが工場敷地であるような印象を受けた。モリブデンとタングステンの精製過程を中心とした説明をいただく。男女の雇用比率は男53%女47%、勤務は3交代制で、土日は全工程完全停止という労働環境とのこと。雇用形態、ワークライフバランス等がしっかりとしている印象を受けた。

工場見学を終え、社員食堂にて社員に交ざりながら昼食を取る。プランゼー社を後にし、ハーネンカムへ向かう。冬はスキー場、夏場はハイキングエリアとして活用されており、通年で楽しむことができる観光地となっている。世界屈指の難関スキーコースとのことで傾斜がかなりきつい。山頂までケーブルカー（スキーリフト）で登り、山地を歩いた。標高1,000メートル以上且つ急傾斜地に牛が放牧されており、どうやってここまで連れてきたのか不思議であった。

その後、ブライテンヴァングに移動し、ユニカール（陸上カーリング）を全員で楽しむ。アドラー姉妹の父親に指導を受けながら2チームに別れてユニカールに興じた。



プランゼー社へもお土産の切り絵を



初めてのユニカール体験



ハーネンカムの山頂付近より。後ろには街並が見える



ハーネンカムには牛が放牧されていました

一旦各家庭に戻っての休憩を挟み、ロイテ市内のレストランを会場に歓迎夕食会が催された。改めて両市長から歓迎の言葉をいただき、皆さんとの交流を楽しんだ。午後7時に始まった歓迎会は11時頃になっても終わる気配を見せない。オーストリア側の学生達は、普段の自分達の楽しみ方を体験させたいとのことで、行きつけのパブに行くことを提案された。会場の保護者達に学生たちがパブに行くことについては問題ないとのことで、全員で移動。しかしながら夜も遅い上に時差ボケの疲労等もあり、30分を経たないうちに「疲れた」「帰りたい」との声を挙げる日本側の生徒たち。オーストリア側の生徒たちに事情を理解してもらい、保護者の迎えを呼び解散となった。



歓迎夕食会ではドイツ語で自己紹介



両市長から記念品をいただきました

8月24日（金）

08:30 ノイシュヴァンシュタイン城

11:00 フュッセン市訪問

16:00 帰宅

早朝にまちを出発し、ドイツ側のノイシュヴァンシュタイン城へ向かう。ディズニーランド内にあるシンデレラ城のモデルとなったノイシュヴァンシュタイン城。世界各地から連日観光客が訪れるとのことで、当日のチケットを買うためには2、3時間は待つのが通常であるという。今回はロ・ブ市側の手配により、開門前の時間に入場させてもらえた。営業時間前ということで、貸切状態でゆっくりと城の中を案内していただいた。城の歴史が浅いということと、観光地となっていることもあり、いわゆる古代の趣めいた感じはなかった。なお、城内撮影禁止だが、唯一バルコニーで撮影することができ、美しい景色を眺めることができた。



ノイシュヴァンシュタイン城前の階段にて



ノイシュヴァンシュタイン城のバルコニーにて

昼食も兼ねてフュッセン市を訪問。全員揃っての昼食後は、各自自由行動。買い物をしたり、スマートフォンで家族へテレビ電話をしたりとそれぞれの時間を楽しんでいた模様。

本日のプログラムを終え、ロ・ブ市へ戻る。時間はまだ夕刻であるため、みんなでボーリングに行くことになった。本当であればバーベキューを！という流れであったのだが、夕方になると天気が崩れる日々が続いており、本日も実現できず。2時間程ボーリングを楽しみ、解散となった。

8月25日（土）

終日 インスブルック市観光

ロ・ブ市はチロル州に位置する町であり、本日はチロル州の州都、インスブルック市を観光。週末は道路がかなり渋滞するとのことで、電車にて移動。日本の電車とは違って速度がかなり遅く、到着まで2時間半を要した。（平日であれば車で90分程度）

本日は朝からあいにくの雨模様。通訳兼案内を担ってくれているロワウド氏はインスブルック市内の大学院に通っているということで、昼食を共にした後ここでお別れとなった。オーストリア側の学生、レオポルドはインスブルック市内の高校に通っており、平日は寮で暮らし、週末にロイテ市に戻ってくるという。インスブルック市での観光にはレオポルドの彼女も合流し、生徒

たちそれぞれがショッピング等を楽しんでいた。夜はリアの家に集まって全員で夕食を楽しんだ。



インスブルック市内



かなり大きなサイズのピザを堪能しました

8月26日（日）

ホストファミリーと過ごす

本日は各自ホストファミリーと過ごす日となっている。引率者はレカの家族からのお誘いを受けたため、亀井京華さん（水沢商業高校1年）と行動を共にすることとなった。綺麗な滝を見に行くハイキングということであった。お昼には帰宅し、レカの母親がハンガリー料理を振る舞ってくれるという。レカの家族に限ったことではないが、ロ・ブ市の人々は自然と触れ合うことを好む傾向にあり、滞在中のプログラムも大自然の中を歩くというものが主となっている。緑や景色が美しいだけでなく、水が澄み渡っていて、どの場所へ行っても自然が素晴らしい。本日訪れた滝や洞窟もとにかく「素晴らしい」の一言に尽きる場所であった。お昼に戻るという話だったが、実際に戻ったのは午後4時過ぎ。かなり遅めの昼食はレカの母親により、ハンガリーの煮込み料理をいただいた。（レカ家族はハンガリー出身で7年ほど前にオーストリアに移住）

夜はアンナ、マルティナ姉妹の家に集まり、ロ・ブ市滞在最後の夜を楽しみながら過ごした。



山に囲まれ、水と緑が豊かな姉妹都市、ロイテ市・ブライトンヴァング市

8月27日（月）

- 11:00 ブライテンヴァング市役所前集合
- 13:00 インスブルック空港
- 15:10 ウィーンへ
- 16:15 ウィーン着後ガイド合流し市内観光

姉妹都市を発つ日がやってきた。時間通りに全員がブライテンヴァング市役所前に集合。地元テレビ局による生徒たちへのインタビューが行なわれた。滞在中の出来事や印象に残ったことなどを個別に質問された。カメラの前ということもあり緊張が見受けられたが、それぞれ英語で頑張って受け答えしていた。インタビュー終了後はホストファミリーとのお別れの挨拶を交わす時間となった。意外なことに涙のお別れとはならず、みんな笑顔で会話を交わし出発の時刻を迎えた。インスブルック空港へはレオポルド親子に連れて行ってもらった。荷物の重量オーバーというハプニングがあったが、手荷物への詰め替えなどにより事なきを得る。

空港にはちょうど出張帰りのハンスペーター市長がおり、10月下旬の奥州市への公式訪問での再会を約束し、我々のお見送りをしてくれた。

ウィーンに到着し、予定通り現地のガイドと合流。専用バスにて市内を移動し、レストランでの夕食後ホテルへチェックイン。ガイドとはここでお別れとなる。

まだ多少日が明るいこともあり、全員で少し市内を散策することとした。滞在ホテルは中心市街地から若干離れた場所に位置することもあり、お店もほとんどなく周囲を散歩する程度ではあったが、姉妹都市とは違った街並みに生徒たちも興味を示していた。



地元テレビ局のインタビューを受けました



お別れだけどまたいつか会おう！



山が目の前にそびえ立つインスブルック空港



ウィーン市内散策時に見つけた公園にて

8月28日（火）

09:00 ホテル出発

終日 市内観光

17:45 ウィーン空港発 日本へ

ガイドと共にウィーン市内観光の日であり、日本へ向けて出発する日。シェーンブルン宮殿、ウィーン美術史美術館を見学。その後ウィーン市役所の地下にある食堂にて昼食。生徒たちは市内観光を楽しんでいる様子ではあるものの、やはりホストファミリーと過ごす方が楽しいと口を揃えていた。全ての行程を終え、日本へ向けて出発となった。



ヨハン・シュトラウスと共にバイオリン演奏のポーズ



シェーンブルン宮殿を背景に

8月29日（水）

11:55 成田空港着

13:18 成田空港発

14:42 上野駅発

17:24 水沢江刺駅着

予定通りに成田空港へ到着し、奥州市へ向かう。体調を崩す生徒もなく、全員が元気に全行程を終えることができた。受け入れ及び派遣を通じて生徒たちの交流が深いものとなっていることを感じ取ることができた。この経験を報告書等によって広く伝え、本事業を安定的かつ継続的なものをしていきたいと切に感じた。

資 料

海外姉妹都市で 実りある日々を 6人オーストリアへ

市内高校生

奥州市の姉妹都市であるオーストリアのロイテ、フライテンヴァング両市に派遣される奥州の高校生6人は20日、市役所本庁に小沢昌記市長を訪ね、抱負



を語った。小沢市長から両首長への親書と土産を託された生徒たちは、「将来につながる研修にしたい」と意気込んでいる。2年に1度実施している青少年交換交流事業。ロ・ブ両市の高校生らは7月19～25日に

来日しており、今回オーストリアへ行く高校生たちの自宅に宿泊するなど、日本文化を体験した。

奥州の高校生たちは、21日に水沢江刺駅を出発。7泊9日の日程で、ホームステイや市内観光、ロ・ブ両市議との夕食会などを予定している。

出発報告で生徒たちは、将来の夢を見据え

研修に懸ける思いを語った。水沢商高1年の亀井京華さん「水沢は「ホストファミリー」と一生の思い出に残る生活をし、学んだことを日本でたくさんの人に広めたい」、金ヶ崎高2年の小野綾花さん

「同」は「新しいことに挑戦したい。成長した姿で帰って来られるよう頑張りたい」と力を込めた。

小沢市長は、2度のロ・ブ両市訪問の内容を紹介しながら「アンテナを高くし、いろいろ

なものを見聞きしてきてほしい。多くの刺激を受け、無事の帰国を」と激励。両市長と、姉妹都市のきっかけをつくった特殊金属加工メーカー・プランゼー

社（本社フライテンヴァング市）社長に「和は友好の輪」と書かれた色紙を託した。ロ・ブ両市の高校生らが来日した際、奥州の高校生と一緒に撮影した写真を入れた和風フォトフレームを、ホストファミリーへの土産として渡した。

異文化肌で貴重な経験

市

オーストリア 姉妹都市派遣 高校生が研修報告

市と国際姉妹都市協定を結ぶオーストリアのロイテ、フライエンヴァンク両市に7泊9日の日程で派遣された高校生たちがこのほど、市役所本庁で小沢昌記市長に帰国を報告した。生徒たちは貴重な異文化体験を振り返り、充実の笑顔を見せた。

隔年実施の青少年交換交流事業。7月にはロ・ブ両市の高校生らを受け入れた。

8月21～29日の日程で派遣された生徒は▽久保耀祐さん（水沢1年）▽加藤璃珠さん（同）▽亀井蘭さん（水沢商1年）▽亀井京華さん（同）▽小野綾花さん（金ヶ崎2年）▽和賀七海さん（同）の6人。市職員が引率した。一行はホームステイし、両市長への表敬訪問や議員との夕食会、

名所観光などで滞在を満喫。生徒たちは「ホストファミリーとうまが取れ、実りのある体験になった」観光ス

ポットなどをいろいろ紹介してくれて、楽しく過ごすことができた」とホストファミリーとの交流や観光、食文化の面など体験を通じて、それぞれの感想を生き生きとした表情で話した。

小沢市長は「将来の自分がどこで何をしているかを明確にイメージし、その目標に向かって努力してほしい」と述べ、貴重な体験を積んだ生徒たちの今後のさらなる成長に期待した。

生徒たちは報告書をまとめ、市ホームページ（HP）での年内公開を目指す。



オーストリアの姉妹都市から帰国した生徒たち